

究極の協働をめざして

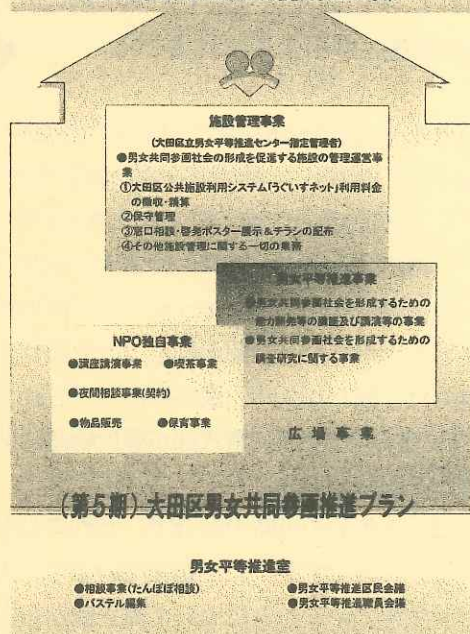
NPOが施設管理と事業運営を

大田区は、地域の女性たちの請願を受け、昭和52年に、“女性が安心して集える場所”として婦人会館を設立しました。その後、現在の大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」になるまでには、時代の流れと共に多くの変遷を経てきました。しかし、社会教育関連施設として、一貫して女性の地位向上をめざし、多くの女性を育ててきたことに変わりはありません。

婦人会館開設から二十数年の間に、区行政と区民女性はお互いに信頼関係を深め、着実に「協働」を進めてきました。その結果が、区から委嘱された委員で構成された「区民自主運営委員会」から生まれたプロジェクトチームによる「特定非営利活動(NPO)法人男女共同参画おおた」の設立につながっています。

大田区の指定管理者制度導入によって、「特定非営利活動法人男女共同参画おおた」は、平成16年4月から2年間、指定管理者としてハード部分である施設の管理運営を任されてきました。さらに平成18年度から5年間は、エセナおおたの施設管理と共にソフト部分でもある講座や展示等事業の企画運営までを任されることになりました。

特定非営利活動法人 男女共同参画おおた の事業
 <男女共同参画社会の形成の促進を図るための事業>



言い換えれば、区民が男女平等推進センター「エセナおおた」を丸ごと任されたということであり、今後は“男女が共にイキイキと暮らせる社会をつくる”という、重要な役割を区と分かち合うことにもなります。

平成15年9月、地方自治法が改正され、公立施設への指定管理者制度が導入されました。

男女雇用機会均等法施行20周年シンポジウム

エセナフォーラム2006 7月1日~2日

キャリアアップの秘訣~夢をもって働ける社会へ~

7月1日(土)13:00~15:00

エセナおおた多目的ホール

【シンポジスト】

- ☆意欲ある女性の育成に力を注ぐ
岩田喜美枝さん(資生堂)
- ☆女性の人生を応援する
渡邊嘉子さん(リクルート)
- ☆ユニークな人事戦略導入
山本尚人さん(トリンプ)

○7月2日(日)
企画 11 団体によるワークショップ開催
○7月1日・2日
両日とも参加団体による展示

この制度は小泉内閣の「官から民へ」の行政改革の一環としてできました。行政機関の経費縮減が主な目的とされていますが、官では限りのあることを民間がやることによって無限な広がりを持つて、という一面を持っており、今後の「エセナおおた」における事業も、自由な発想での展開が期待できます。

「エセナおおた」は、私たちが納めた税金で建てられた大事な施設です。常に「平等」「公平」を念頭におき、これまでの歴史を大切にしながら、一歩前進した新しい歴史を刻みながら、区民の皆さんに愛されるセンターの運営を心がけていきたいと思っています。(北田久枝)

はじめての源氏物語

～千年、紫式部の熱い思い～



4月17日から毎週月曜日4回にわたり、「はじめての源氏物語」を行いました。最終回の5月8日は、「紫式部が源氏物語に込めた熱い思い」がテーマでした。講師の黒木睦子さん（源リウ会）が「一番伝えたい」という『夕霧の巻』の内容から、現代にも通じる「女性の生き方」について、それまでも増して熱く語られたお話しに、約40名の受講生が引き込まれました。



54帖まである源氏物語の中で、私が一番感動し、みなさまにご紹介したいのが39帖の『夕霧の巻』です。

私はよく「源氏物語って何がそんなに楽しいのですか?」、「何がいいのですか?」と尋ねられます。また「源氏物語は誰のために書かれたのでしょうか?」、「何のために書かれたのでしょうか?」と、聞かれることもあります。

その魅力はと問われた時、飛びぬけて「これだ」と言えるのが、『夕霧の巻』です。紫式部が源氏物語に込めた熱い思いが伝わる部分です。

紫式部は、千年前の当時の社会で、女性の生き方に対して「これでいいのですか?」と訴えています。人間として生を受け、生きていくことについて真正面から捉え、私はこう思う、「女よ、人間であれ」と伝えようとしています。

◆千年前の女性の叫び



『夕霧の巻』の登場人物は源氏、紫の上（源氏には、たくさん妻や愛人がいましたが、中でも源氏に一番愛されていた女性）、夕霧（源氏の最初の正妻、葵の上との間にできた息子）、夕霧と恋仲だと噂されている女二の宮、源氏の孫に当たり紫の上に育てられていた女一の宮です。

夕霧と女二の宮の噂を聞いた源氏の君と紫の上の思いを描いた場面があります。

夕霧が友人であった柏木の死後、柏木の妻だった女二の宮を見舞っているうちに恋仲になったと噂されていますが、本当は夕霧の一方的なものでした。息子の噂に嘆いている源氏の君が、ある日、紫の上に向かってこう言ったのです。

「私が死んだ後、あなたのことが気にかかるよ。誰かがまた思いを掛けることがあるのではないかと。つまり、妻は大変美人だ、もし私が先に死んだら他の男性が紫の上を放っておかないかもしれない、夕霧と女二の宮と同じようなことが起こるかもしれないと考えたのです。

これを聞いた紫の上は、「源氏の君はひどいことをおっしゃる。私とこうして長く連れ添っていても、そんなふう

にしか見ていないのか? 女だから、自分の考えで、こうする、ああするということができない。なんて女とはつまらない存在なのだろう」と思ったのです。

紫の上は幼い時から意思のはっきりした聡明な女性でした。14歳になった時、「私は望んでいない、自分の考えではない」と抵抗しましたが、源氏の君は自分の妻にしてしまいます。当時の女性には自由が全くありませんでした。結婚は男の意思のみでできました。男は相手を求めてよいが、女はいけないというのが常識でしたから、夕霧と女二の宮の噂にしても、女二の宮が世間から強く批判されています。女二の宮が憤ましくしていなかったから問題が起こったとみられていたのです。



そこで、紫の上は、「女二の宮だって、夕霧を愛しているのならば、自分の意思で結婚すればいいではないか、女だって人を愛するのは自由ではないか、人を愛したからといって非難されなければならないのだろうか、可哀想だなあ、女というものは、自分の考えたように行動することができないのだから……」と嘆き、次のように続きます。

「女は、そぶり、ふるまい、態度をいつも引っ込めている。人が集まって話していても、自分の意思や思いを表すことはできないので、話の輪の中に入ることもできない。自分の感情や思いや意見を、いつも内に引っ込めて過ごしていかなければならないとしたら、女は何のためにこの世に生まれてきたのでしょうか?」

「この世に生まれてきているならば、自分の存在をはっきりさせなければ、生きていく意味がないではありませんか。なのに自分自身を引っ込めることが女のあるべき姿、生き方だとするならば、女は体がここに在っても、物体の体がそこにあるだけで、そこに存在するとは言えないのではないか。この世に人間として生きていることの生きがいというのは、いったいどこにあるのか。女も人として生まれたからには、自分の意思をはっきり持って、それをこの世の中に表し、生きてこそ一人の人間として生きていることの意味があるのではないのでしょうか?」



「人と人とのつながりも同じことです。どうすれば通じあうのですか? それはお互い話し合いをすることです。しかしそうしたくたつて、女は自分の思いを表現することを許されていないのですから、人と通じ合うこともできない。何を聞いても、何を見ても、私は分かりません、気がつきません、存じませんと分からないふり、知らないふり

で過ごさなければならぬのだから、女というものはつまらないものだと思われても仕方ない。女だって人間ですもの、心というものがあります。思いというものがあります。

その思いを表現する自由がない。どんな思いだって、いつもそれを心の中に秘めておかなければならぬ女の生き方って、何て情けないことなのでしょうか」……と。

さらに紫式部は、次のように言っています。

「お坊さんの修行の中に、ずいぶん難しい修行があると聞かされたとしても、中でも一番辛いのが無言の行だと言われている。とすれば女は生まれてから一生、自分を表現することができないのだから、一生その苦しい無言の行を続けなければいけないということになるではありませんか。

物事の善し悪しの分別は、女だって人間ですもの持っています。そして分別を基準に、自分自身の考えもはっきりしてくるのです。けれどもその考えを表に出すことはできない。まるで自分自身を砂の中に埋めたかのように、自分の判断や考えはまるでありませんというように過ごしていかなければならないのですから、女ほど生きがいのない人生を持った人間はいないのじゃないか」と。

◆「源氏物語」はなぜ書かれたのか？

作者の紫式部が生きた時代は、女性には自分の言葉で自分の思いを表現する自由はない、自分の考えで行動する自由もない、女性たちは非常に圧迫され、いつも男性によって作られ操作され、男性によって生かされていくものであるというのが常識でした。

しかし、紫式部は女性たちが置かれた立場、現実には同意していません。女はこれでいいのかという問い、「女だって人間よ」という心に秘めた叫びを持っていたのです。

千年前の平安時代に、すでに人間への回復を願って、源氏物語は紫式部の手によって書かれました。単なる恋愛小説ではないのです。ですから、どの部分をとってみても、人間とはどうあるべきか、女はどう生きるべきかということが、物語の中にうまく込められています。

紫式部は紫の上の思いを、最後に次のように書いています。

「女だって人間よ。自分の考えもあるのよ。意思もあるのよ。紫の上は、本当は強くそう思っているけれど、実際には思うように自由には行動できない。紫の上の意思通りに生きるということではできない。社会全体が女はこうあるべきとしてしまっているのだから」と。

平安時代の前の時代、奈良時代の女性たちは責任をもった社会人であり、自分の意思で行動できていました。紫式部はその時代の空気をまだ残していたのでした。

◆「源氏物語」に男女共同参画の原点が……？！

『夕霧の巻』に書かれた、紫の上の言葉は本当に重要です。千年前に紫式部が書き伝えた問題は、残念ながら今日と決して無関係ではありません。ほんの少し前まで、「女の

くせに」という言葉は、日常的に使われていました。今でも、まだまだ、そういう人はたくさんいます。男性が女性を性別だけを理由に見下すこと、また女性も自分自身を見下して考えることが常識として存在しているとしたら、本当につまらないし、もったいないことです。

女も男も日本国憲法第14条において「法のもとに平等」です。女性も男性も共に尊重され、仲良く元気に生きられたらいいのですが、現実にはそう簡単ではありません。

夫婦は一緒に日々努力し成長して、喜びも悲しみも乗り越えていくもの、家族はお互いが協力して築いていくものだと思いますが、それには時間が必要です。しかし家族で過ごす時間が、日本人はあまりにも少ない。これは大きな問題です。

男女共同参画社会基本法が平成11年6月15日に国会を通過し、23日には施行されています。その頃よりも今のほうが、家庭で話し合う時間が少なくなってきました。

日本の長時間労働、家庭を犠牲にする風潮は困ったものだと思っています。もっと早く帰って、家族とともに過ごすように、本人も企業も社会全体が家庭を大切にするような方向にもっていかなければならないと思います。そうでなければ、生まれも育ちも違う夫婦が分かり合うことも尊重することもできるわけがありません。

先日、新聞で企業が仕事と家庭を両立させる「ワークライフバランス」を充実させ、女性が働きやすい職場環境づくりをめざす、という記事を見ました。こうして少しずつではありますが、社会が良い方向に変わっていけるのかもしれない。

男性の育児休暇などせつかくいい制度があるのに、利用する人が少ないのも問題です。しかし、後ろ向きに心配ばかりしても仕方がないので、常識や当たり前と言われていたことも変えていかなければと思います。20年前、休みは日曜日だけでしたが、今は週休2日になっています。私たち一人ひとりがこの社会を良くしていこうと思えば、変えていくことは可能です。

女も男も、家庭でも社会でも、一人の人間として自立して、必要があれば何でもできる、そうした人間同士が互いに協力し合って、それぞれの個性を生かして、一人よりは二人の力を合わせて、一人ではできないものを生み出していく、そこに人間としてこの世に生まれてきた喜びと使命があるのだと思います。

千年前すでに、私たちが今日めざしている男女共同参画社会の原点となるべき熱い思いがあったことを、紫式部の物語を通して知ることができます。

男女共同参画社会とは、まず家庭から生まれるものだと思います。女も男もお互いに理解し尊重し愛し合い協力しあって、はじめて実現できるものだと思います。

(まとめ 伊藤登美子)



●ママのための再就職不安解消セミナー

子育てをしている女性が持つ再就職への不安(育児、家事、パートナーとの関係など)を解消するための情報提供やコミュニケーションのとり方についての講義、ディスカッションを通して再チャレンジを応援します。(全2回)



日程	内容
6月30日(金) 10時~12時	「まだ働くこと」に対する不安解消 育児、パートナーとの関係、家事など、再就職にあたっての不安の原因を探り、自分が働く目的を明確にします。
7月7日(金) 10時~12時	「子ども」に対する不安解消 保育施設への申し込みのテクニックなど、子どもの預け先についての具体的な情報提供と子育てに関する不安を解消します。

募集:25名

参加費:無料

保育あり:1歳~未就学児

(一人1回 500円 要事前予約)

申込:往復はがき、Eメール、FAXで。

6月20日(火)必着



●就職に役立つパソコンスキルセミナー

ワードを中心としたパソコンのスキルを身に付け、再就職を希望する女性を応援します。

平成18年7月21日(金)~8月29日(火)の毎週火、金曜日(8月15日、25日除く)。9時~11時30分(全10回)

日程	内容
7月21日(金)	PCを仕事で使うための心構えと基本知識
7月25日(火)	Wordによる文書の作り方基本1
7月28日(金)	Wordによる文書の作り方基本2
8月1日(火)	Wordによる文書の作り方基本3
8月4日(金)	Wordによる文書の作り方基本4
8月8日(火)	Wordによる文書の作り方基本5
8月11日(金)	Wordによる文書の作り方基本6
8月18日(金)	Excelの基礎
8月22日(火)	Excelによる帳簿、集計表の作り方
8月29日(火)	インターネット・パソコンの管理について

会場:大田区立御園中学校(大田区西蒲田8-5-1)

JR、東急蒲田駅より東急線沿いに歩いて3分 ユザワヤ並び

募集:25名(キーボード操作ができる女性)

参加費:10,000円 保育なし

申込:Eメールで。7月5日(水)必着

夏休み父子チャレンジ!

対象・定員:小学生と男性の保護者15組

参加費:手打ちそば(1組)・・・1,000円、凧作り(1セット)・・・1,000円、
デイキャンプ 大人1,000円、小学生800円、未就学児500円

申込方法・締め切り 往復はがきのみ 7月14日(金)必着

7月23日(日) 10時~12時	名人が教える手打ちそばにチャレンジ	エセナおおた調理室・和室
8月6日(日) 10時~13時	大空を飛ぶ凧づくりにチャレンジ	エセナおおた多目的ホール
8月20日(日) 10時~14時	家族で野外バーベキューにチャレンジ	平和島公園キャンプ場

◇びよたまクラブのお知らせ◇

★親子でBe Happy! 対象:親と乳幼児

毎月第2・第4木曜日 10:30~12:00

★おもちゃであそぼ! 対象:子どもから大人まで

毎月第4日曜日 13:30~16:00

★おはなしの会 対象:子どもから大人まで

毎週水曜日 15:30~



◆折り紙広場

毎月第3土曜日 13:30~16:30

参加費:一回500円と材料費

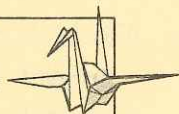
(小学生は材料費のみ)

◆女性に対する暴力ゼロをめざして

パープルリボン・プロジェクトにご協力を

あなたにできることは3つ ①リボンをつくる

②リボンを買う ③リボンを身につける



エセナおおた映画会

黒木和雄監督作品

「父と暮らせば」

8月12日(土) 13:30~15:30

エセナおおた多目的ホール

黒木監督「戦争レクイエム3部作」
完結編。原爆で父や友を失い、自分だけが生き残った罪悪感に苛まれる娘を宮沢りえが熟演。

大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

〒143-0016 東京都大田区大森北 4-16-4

電話 03-3766-6587 03-3766-4586

FAX 03-5764-0604

e-mail esenaota@yahoo.co.jp

HP URL <http://www.escenaota.jp/>

メルマガ escenaotamail@yahoo.co.jp

指定管理者 特定非営利活動法人男女共同参画おおた

